

【優秀賞】

団体名	愛知県ハイスクール・起業家コンテスト実行委員会
活動の内容（概要）	<p>将来を担う高校生に実際のビジネスに携わる機会を提供し、起業家精神の醸成及びキャリア教育の推進、更に地域経済の活性化を図るため、西尾信用金庫が中心となり、平成22年度より「西三河ハイスクール・起業家コンテスト」を開催（平成25年度より、実施地域を拡大し「愛知県ハイスクール・起業家コンテスト」として開催）。</p> <p>参加高校の生徒は、5名～20名程度で仮想企業を作り、5か月間の事業活動期間において、事業計画の策定・商品開発・製造・広告・販売・決算に至るまでを自ら考えて行っている。また、期間終了後は事業活動の成果を発表する「審査発表会」を開催、各チームの発表内容に対して地元企業経営者がアドバイスを行うとともに、優れた取組に対する表彰を行っている。</p> <p>平成25年度は、愛知県教育委員会と両主催にて、「第23回全国産業教育フェア愛知大会」の一事業として、対象を愛知県全域に拡大して開催している。</p>

受賞理由

- ・ものづくり分野以外のキャリア教育の実践モデルとしての意義のほか、多様な分野におけるキャリア教育の可能性を示唆している。
- ・経産省、愛知県、県教育委員会、経済団体、大学等との連携による「実践的ビジネス教育」として、多方面からの協力が得られている。
- ・事業活動資金の提供、サポート店舗の設置、販売活動時の支援及び取材活動の実施、ビジネスマッチングの実施、経営感覚を身に付けるための関連帳票の作成、学生の事業成果に対する経営者によるフィードバックなど、ビジネス教育を実践する上で数々の有益な支援体制が確立されている。
- ・事業計画の策定から決算までの一連のビジネス体験を伴う起業家教育プログラムとして、学校現場への普及が期待される。
- ・H22からの「西三河ハイスクール・起業家コンテスト」が基盤となって、H25「愛知県ハイスクール・起業家コンテスト」に発展。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

愛知県教育委員会、第23回全国産業教育フェア愛知大会実行委員会、愛知県内の専門学科を有する高校（28校）

【行政】

愛知県

【地域・社会】

名古屋大学、名古屋文理大学、NPO法人アスクネット 他多数

【産業界】

西尾信用金庫、いちい信用金庫、西尾商工会議所

活動開始の経緯

廃業率が開業率を上回り、事業所数の減少に歯止めがかからない状態が続いている中、将来を担う高校生に実際にビジネスに携わる機会を提供し、地域の若者の育成を通し地域経済の活性化を図るため、西尾信用金庫が本コンテストを企画し、愛知県西三河南部の校長会へ、企画内容及び目的、地域経済の活性化等を提案・説明。各校長の賛同を受け、平成 22 年度を第 1 回としてコンテスト開催に至る。

活動実績

- 平成 22 年度 「西三河ハイスクール・起業家コンテスト 2010」
参加高校 10 校、参加高校生 256 名
- 平成 23 年度 「西三河ハイスクール・起業家コンテスト 2011」
参加高校 10 校 参加高校生 231 名
- 平成 24 年度 「西三河ハイスクール・起業家コンテスト 2012」
参加高校 10 校、参加高校生 278 名
- 平成 25 年度 「愛知県ハイスクール・起業家コンテスト」
参加高校 28 校、参加高校生 409 名

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

本コンテストが当該地域・社会全体での取組となるよう、下記の点に取り組んでいる。

① 関係機関への周知徹底及び協力依頼

キャリア教育に必要な関係機関への周知徹底及び協力依頼を図り、西尾商工会議所、経済産業省中部経済産業局、愛知県、愛知県教育委員会、独立行政法人中小企業基盤整備機構中部本部より後援を得、開催している。

② 西尾信用金庫の産学官連携協定先の活用

高校生が販売促進及び販売活動を行う上で、専門家からのアドバイスを必要としていた際に、西尾信用金庫が、産学官連携協定を締結している名古屋文理大学を紹介。全国で同大学にしかないPR学科に所属する大学生を派遣してもらい、アドバイスを得る。

③ 「愛知県ハイスクール・起業家コンテスト」実施に係る工夫

平成 25 年度の「愛知県ハイスクール・起業家コンテスト」では、当金庫と両主催である第 23 回全国産業教育フェア愛知大会実行委員会（愛知県教育委員会）より委託を受けた幹事高校である愛知県立一宮商業高等学校と協力して実施。また愛知県全域にわたる参加高校へのサポート体制を充実させるため、いちい信用金庫と協力して各参加高校の事業活動を支援した。

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

・長期にわたり運営していくために、下記のPDCAサイクルを実施している。

<P：計画>

起業家コンテスト開催前に、各関係機関及び各参加高校、審査委員の方々に対し、「開催要項」を交付し、コンテストの開催目的及び実施スケジュール等について情報共有を図っている。また参加高校の担当教員に対しては、コンテストに係る説明会を開催前及び開催中に 2 回実施。

<D：実施>

6月から11月まで（平成25年度は4月から8月まで）を事業活動期間、12月（平成25年度は9月）に事業活動の活動報告書及び経営計画書（実績入力後）の提出、翌年1月（平成25年度は11月）に事業活動の成果を発表する審査発表会の開催までをコンテストの一連のプログラムとして実施。

<C：事後の検証>

コンテスト終了後に、参加高校生及び関係者へのアンケートを実施し、次回のコンテストの内容修正、改善につなげている。

<A：改善実施>

アンケート結果を踏まえ、コンテスト内容の高度化・充実を図るため、改善を実施している。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

・効果的なキャリア教育の実践を促進するため、下記の点に取り組んでいる。

①事業活動資金の提供

参加高校の経済的負担の軽減及び、より実践的なビジネス体験の提供を目的として、当金庫より参加高校へ事業活動資金を提供している。

②サポート店舗の設置

参加高校の近隣にある当金庫の支店及びいちい信用金庫の支店をサポート店舗として選定。各支店長はサポート店舗長として自ら各参加高校の事業計画策定や販売活動の支援及び企業紹介等のアドバイスを行った。

③販売活動時の支援及び取材活動の実施

参加高校が販売活動を実施する際に、上記サポート店舗職員及び本部職員が取材活動を実施。取材時は販売方法や接客対応、商品の陳列等について、金融機関職員の視点からアドバイスを実施した。

④ビジネスマッチングの実施

地域の課題である「地産地消」に取り組む高校が多い中、より実社会のビジネスに近づけるため、商品の開発段階から必要に応じて、最適な企業を当金庫の取引先企業より選定し、取引先企業の上承のもと、参加高校とのビジネスマッチングを図ることで、より高度なビジネス実践及び地元産の商品開発を支援した。ビジネスマッチングの結果、取引先企業の常時販売商品として店頭に並びヒット商品も誕生した。



地元の祭事で販売活動を行なっている様子

⑤販売場所の提供

学校外における販売機会の不足に対応するため、地域で開催される産業フェアや地元朝市に当金庫が販売ブースを設置し、無料で参加高校へ紹介することで、販売機会の創出に努めた。

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

①平成 25 年度のコンテスト開催

西尾信用金庫の主催により同コンテストを平成 22 年度より 3 回実施してきたが、その取組及びキャリア教育としての効果が評価され、平成 25 年度は専門学科を有する高校等の生徒による学習成果の発表の祭典でもある「第 23 回全国産業教育フェア愛知大会」の一事業として、第 23 回全国産業教育フェア愛知大会実行委員会（愛知県教育委員会）とともに開催した。コンテスト対象高校を従来の西三河南部地域から愛知県全域に拡大した結果、参加高校数は従来の 10 校から 28 校へと増え、教育関係者と地域・社会及び産業界の関係者とが連携・協働して地域全体で取り組んでいる。

②地元企業とのビジネスマッチング

必要に応じて西尾信用金庫の取引先企業とのビジネスマッチングを図る際に、当コンテストの趣旨及びキャリア教育の重要性について取引先企業に説明し、支援を得ている。また取引先企業からも高校生の若い感性を生かした新商品開発ができることはビジネスにおいて非常に有効であると評価を得ている。

学校現場の評価・感想・コメント

実社会において、いざ起業するとなると、時代に即したアイデアや勇気、知識のみならず、資金面への援助が必要である。

この起業家コンテストでは、職業教育を主とする専門学科をもつ学校が参加し、ふだん学ぶ領域が違った同世代の高校生が、西尾信用金庫に運転資金の援助や、販売機会を提供していただきながら、地域・企業と連携し、経営計画や実績報告を提出、プレゼンし、アイデアを競い合う。

高校生だからといって甘えられない「実践的ビジネス教育」に真剣に取り組める環境が整っており、生徒の成長が実感できる。まさに、文部科学省が推進するキャリア教育の重要性及び新学習指導要領の「生きる力」を育む理念に沿った取組であると評価している。

<評価者>

愛知県立鶴城丘高等学校 校長 間瀬 好康
教諭 鶴田 毅

直接連携・協働していない関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

決算までの一連の流れを体験できる起業家育成プログラムであり、キャリア教育の実践に資するものである。

また当コンテストは汎用性がある地域活性化策として、他地域へも波及・展開が可能であり、信用金庫に求められている地域貢献への先進事例として高く評価され、本年 6 月全国信用金庫協会から「信用金庫社会貢献賞」の最優秀賞（会長賞）を受賞している。

<評価者>

一般社団法人東海地区信用金庫協会 会長 御室 健一郎
専務理事 比沢 一行